

(熊本郡上屋久町宮之浦)

### 位置と環境

火之上山遺跡のある屋久島は、面積約500km<sup>2</sup>の円形の島である。地形は、概ね海岸線から急峻な山々へ続くため平野部は少なく、中央部は宮之浦岳など1500m以上の山々が30以上も連なる。

本遺跡は屋久島北部をほぼ北東側に流れながら東シナ海に注ぐ宮之浦川右岸の沖積低地で、北東側にある海岸線まで約100mの距離を隔てた砂丘の後背地に立地する。

同じく宮之浦川の右岸にあり、遺跡と隣接する宮浦中学校の校庭は昭和50年代に造成作業が行われ、多量の土器が出土したとのことであった。当時の地形は、起伏に富んだ砂丘であったらしい。このことから、遺跡の本体部分は破壊された可能性もある。

### 調査の経緯

宮之浦港改修に関連し、国道58号線から宮之浦港に至る道路建設に伴い、鹿児島県教育委員会が平成5年に確認調査、平成7年に一部確認調査と本調査を実施した。本調査面積は、445m<sup>2</sup>であった。

また、屋久島測候所宿舍新築工事に伴い、町教育委員会が調査主体となり、県教育委員会の協力を得て、平成13年に試掘調査、平成14年に本調査を実施した。本調査面積は、194m<sup>2</sup>であった。

### 遺構と遺物

平成7年と平成14年の調査区域は、ほぼ東西に隣接している。これまでの調査においては遺構は、確認されていない。

平成5年の確認調査では弥生時代の入来式土器や山之口式土器、古墳時代の成川式土器の遺物も確認されているが、全て攪乱層からの出土であり、河川の氾濫による流れ込みと思われる。

これまでの調査結果では、包含層から出土する土器のほとんどが上能野式土器である。本遺跡から出土する上能野式土器の器形は釣り鐘形の甕形土器で、脚台を持つ土器である。甕形土器以外の器形は、確認されていない。

また、石器については、磨製石斧・打製石斧・磨石・敲石・凹石・石皿・礫器・軽石製品が出土して



第1図 火之上山遺跡の位置

いる。

### 特徴

上能野式土器の報告は、標識遺跡である西之表市上能野貝塚のほかに西之表市の横峯遺跡・椎ノ木遺跡や平成5年に調査が行われた嶽ノ中野B遺跡（西之表市）と本遺跡を数えるのみである。上能野式土器の出土例が少なく、供伴関係にある遺物の出土もないことから、その全容は未だ不明である。

出土する上能野式土器は鉢形土器がほとんどで、壺形土器等については確認されていない。

嶽ノ中野B遺跡の出土土器は、口縁部肥厚帯の断面が四角形を呈するものがほとんどであるのに対して、本遺跡の資料は三角形を呈するものが約半数ある。また、文様構成については、本遺跡では直線的な沈線が多いのに対して嶽ノ中野B遺跡では曲線的な沈線が見受けられる。

上能野式土器の時期についても、調査例も少なく供伴遺物もないことから、現在のところ古墳時代の遺物と想定されている。

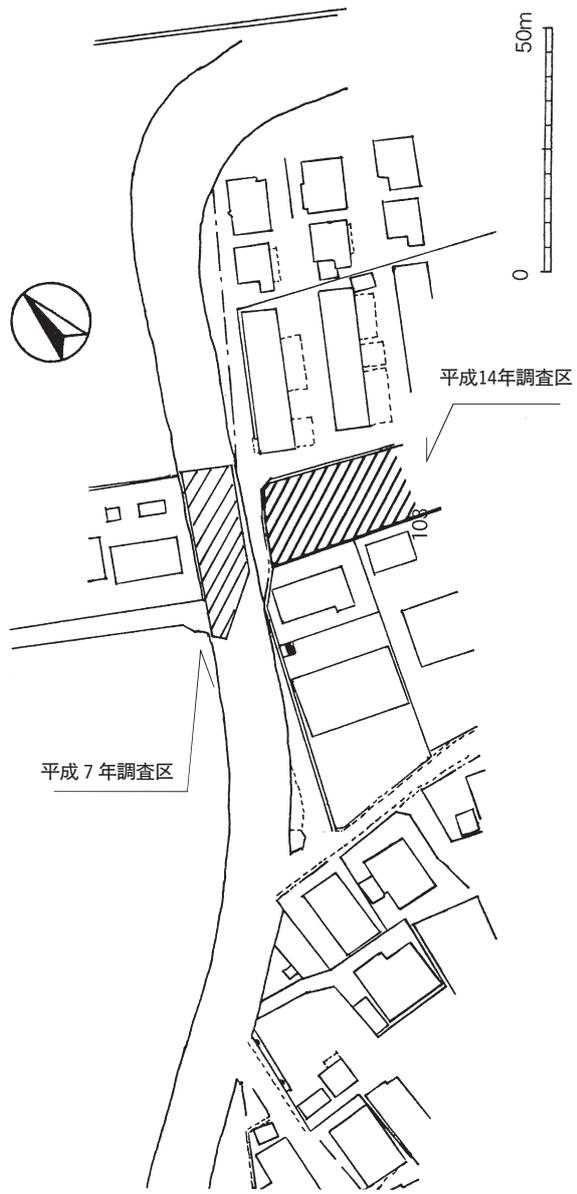
### 資料の所在

平成5年、平成7年の県調査分は、鹿児島県立埋蔵文化財センターに保管され、平成13年、平成14年の上屋久町調査分は、上屋久町教育委員会に保管されている。

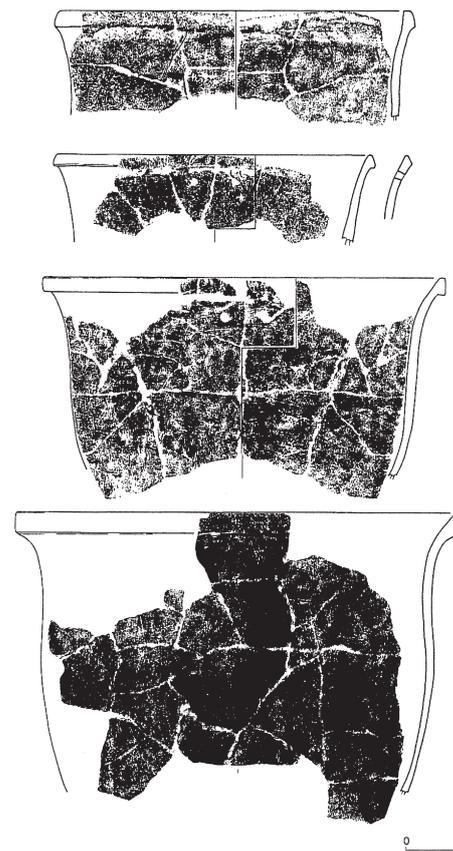
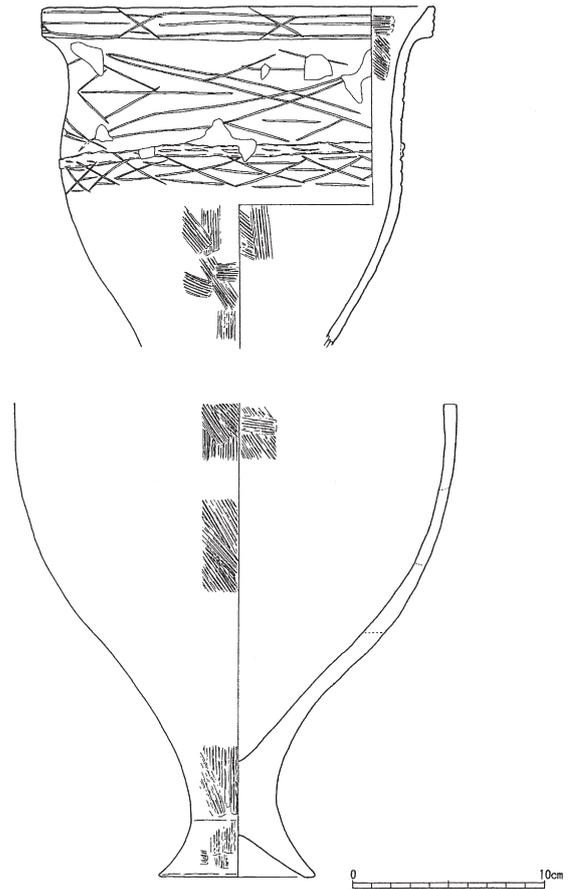
### 参考文献

鹿児島県立埋蔵文化財センター1996「火之上山遺跡」『鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書』17  
上屋久町教育委員会2003「火之上山遺跡」『上屋久町埋蔵文化財発掘調査報告書』7

(倉元良文)



第2図 発掘調査区域



第3図 出土遺物